



「歯周基本治療」復権の時代が来た！ SRP からデブライドメントへ！

“超音波”を攻略せよ
ペリオドンタル・デブライドメント
プラス1
大野純一 編著

A4 判変／128 頁／定価 11,000 円（本体 10,000 円＋税 10%）／医歯薬出版（2024 年 9 月）

本書は、歯科医師が執筆した歯周基本治療における超音波インスツルメントの使い方を解説した本で、臨床で悩み多いプラークコントロールの“攻略”にマストな 1 冊です。

歯周基本治療にかかわる歯科衛生士の視点から本書をご紹介しますと、第 1 講では、歯根形態を多種多様な患者さんの歯に紐付け、臨床の視点からまとめています。歯根の解剖学的形態はさまざまな書籍で書かれていますが、一般論をどのように臨床に落とし込むかを言及している点が、インスツルメンテーションの新たなヒントになると感じました。

続く第 2 講と第 3 講は、超音波インスツルメントと歯周基本治療におけるインスツルメンテーションについて述べられています。ここは、エビデンスを交えて、超音波インスツルメントの成り立ちや手技をあますことなく解説するパートです。一般的に、歯科衛生士が超音波インスツルメントのテクニックを学ぼうと手に取るのは、経験ある歯科衛生士が書いたものが多くありませんか？ たしかにベテランならではの意見は参考になりますが、あらためて、本書で超音波インスツルメントの基本を確認するのもよいと思います。

第 4 講では、インスツルメンテーションを

行った歯周組織に何が起こるのかという疑問を、メインテナンスに関連したエビデンスにもとづいて紐解きます。ベーシックな一般論を正しく理解して知見を得ることで、歯周基本治療の引き出しが増えるように、本書のエビデンスを自身の臨床にリンクさせて活用しましょう。

本書のキーワードともいえる「縁上ファースト」の考え方は、「プラス 1（補講）」として最後に解説されているので、ぜひ読んでください。「患者さんのセルフケアが改善し、維持されているとき」にこそ、本書は役立つと思います。また、妥協的メインテナンスで何をするかといったことも書かれており、歯周基本治療に悩みアドバイスが欲しかったとき、皆さんに新たな発見をもたらすと思います。

まえがきの「すごい専門家は地味な方法で問題を解決し、重症化する前にコントロールしている」というメッセージは、予防のプロフェッショナルである歯科衛生士だからこそ共感できます。きっと、プラークコントロールを^{なりわい}生業とする私たちのモチベーションを支えてくれるに違いありません。デジタルな世界が目まぐるしく変化する中、いまだからこそ、ペリオドンタル・デブライドメントを深掘りした本書を片手に、“プラス 1”な歯周基本治療を攻略するのはいかがですか。